



# 地域医療連携室

## 地域医療従事者研修 「ACP研修」を開催して

緩和ケア認定看護師 水野 綾花

9月19日、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をテーマに地域医療従事者研修を行いました。この研修は、地域支援病院として地域の医療従事者への知識・技術の習得の機会とし、地域と共に医療の質の向上を目指すことを目的としています。当院から13名、院外から30名の方が参加され、医療現場におけるACPの重要性について理解を深める場となりました。

ACPとは、もしものときのために、自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族や大切な人、医療従事者とくり返し話し合い、共有する取り組みのことです。どのような治療を受けたいか、または受けたくないか、療養生活をどのように過ごしたいか、人生で大切にしたいことなどを事前に話し合うことで、希望に沿った医療やケアを受けやすくなります。最期まで自分らしく過ごすために、とても大切な取り組みです。

研修では、ACPとは何か、話し合いの進め方、コミュニケーションスキルについて講義を行いました。くり返し話し合うことが重要である一方で、

考えたくないときは無理にACPを進めなくても良いこともポイントとしてお話ししました。講義のあとは、参加者同士でACPについての経験や悩みを共有しながら、意見交換が行われました。「その日の様子を話すことはあったが、経過や見通しについて話す視点は無かった」「話し合うプロセスが大事だと気付いた」という声や「もっと地域住民への周知・啓発活動が必要」「多職種がそれぞれの立場で拾える情報があり、それを統合する場所が必要」という課題も出ました。

また、「職場で周知して明日からのケアに活かしたい」「他の医療機関の方の意見や本音を聞くことができてよかった」といった意見が聞かれました。こうした研修が、地域全体でのより良いACPの実践に繋がり、より多くの方が希望に沿った医療やケアを受けられるよう、今後も普及啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。

